

千ヨウの宝庫 アルプス公園

アルプス公園は松本市街地にほど近い場所にあり、市街地周辺で多くのオオムラサキをみることが出来るめずらしい公園です。アルプス公園には、オオムラサキをはじめとするチョウがたくさん生息しており、多くの種類を簡単に観察することができます。

日本の国蝶オオムラサキ

北海道から九州の雑木林に住む羽を開くと10cmを超える大きなチョウです。オスは羽がむらさき色、メスはちや色で、メスのほうが体が大きいです。大変気が強いチョウで、すばやく飛びまわり、なわばりに入ったものは、鳥であっても追いはらいます。また、ふだんは羽を閉じてとまるため、羽のものがみえることが少ないです。日本の国を代表する国蝶にえらばれています。



絶滅のおそれ?

オオムラサキは、全国的に減少しており、絶滅のおそれのあるチョウになる可能性があると考えられています。とらずにやさしく見守っていきましょう。

環境省レッドデータブック
準絶滅危惧種

準絶滅危惧種とは、今のところ絶滅する可能性はひくいですが、今後の環境の変化によっては絶滅する可能性がでてくる種類のことです。

長野県レッドデータブック

留意種

長野県にはまだオオムラサキが多く生息しています。しかし、全国の状況から、長野県レッドデータブックでは、見守っていく必要がある「留意種」に指定されています。

豊かな林の象徴

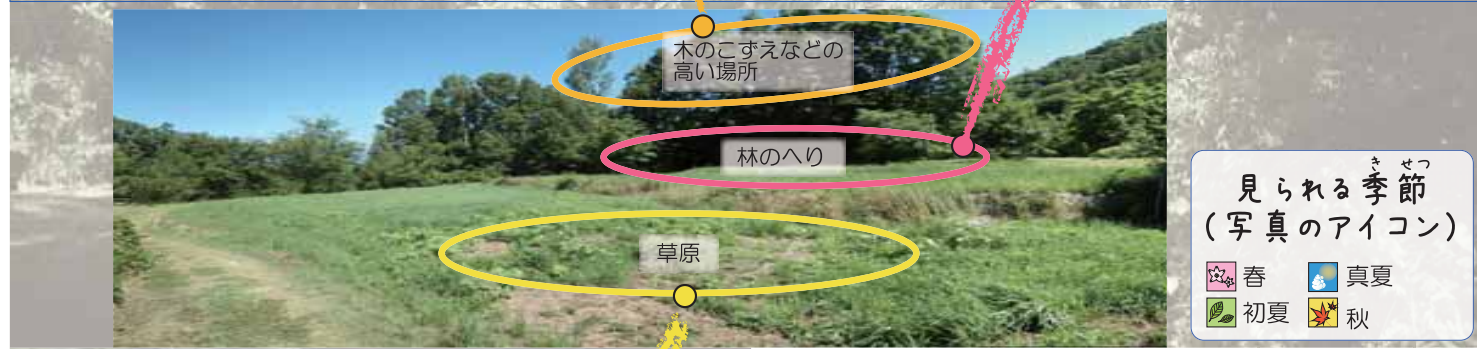


オオムラサキの幼虫はエノキやエゾエノキの葉を食べて成長し、幼虫の姿で冬をこします。成虫は年に1回7月ごろにみられ、クヌギなどの樹液をすってくらしします。アルプス公園にオオムラサキがたくさん生息できるのは、幼虫のえさであるエノキ、エゾエノキに加えて成虫のえさであるクヌギなどの樹木がたくさんある雑木林が豊かであるためです。

多様な環境に生きる千ヨウたち

アルプス公園には雑木林、草原、池などの多様な環境があり、チョウたちは環境をうまく利用しながらくらししています。

林の千ヨウたち



見られる季節 (写真のアイコン)

春 真夏
初夏 秋



草原の千ヨウたち

公園の施設を利用

人知れず公園の施設をチョウが利用することがあります。

水道の流しにたまった水を飲むオオムラサキ

花だんの花からみつをすうスジボソヤマキチョウ

お問い合わせ
松本市 環境部 環境保全課 環境保全係
☎ 0263-34-3267 E-mail:kankyo-k@city.matsumoto.lg.jp

アルプス公園のチョウ類調査及びこのパネルの作成は「平成30年度長野県 地域発元気づくり支援金」により実施しました。